



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年11月26日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

小児心臓移植の現実

26日(日)＝1、3面

子どもの臓器移植を巡る現実をご存じでしょうか。15歳未満の子どもの臓器提供も家族の同意があれば可能とした改正臓器移植法が2010年に施行されました。ただ、日本臓器移植ネットワークによると、6歳未満の脳死者からの臓器提供は18年10月末までで計9例にとどまっています。

22年4月、心臓移植がかなわず命を落とした子どもがいました。玉井芳和ちゃん。わずか4歳2カ月の時でした。とても小さな体で闘病して

きたのですが、短い人生を終えたのです。

芳和ちゃんの死後、母親は「国内での移植を選ばなければ」「海外で移植をしていれば」などと自身を責めるばかりでした。

実母からの生体腎移植で救われた記者が、芳和ちゃんの人生をたどるとともに、我が子を失った両親が、同じ境遇の家族へ伝えたいと語っていることを記します。

小児心臓移植の現状に迫ります。



心臓移植を待ち始め、まだ元気だった玉井芳和ちゃん＝家族提供



どうなる？大阪・関西万博

30日(木)＝3面

大阪・関西万博の開幕まで11月30日で500日。入場券の前売り券が発売となり、機運醸成のためのイベントも各地で予定されています。万博を巡っては、会場建設費の2度目の増額が明らかになったばかりですが、万

博協会は主に入場券収入で賄われる運営費についても上振れを示唆しています。前売り券は会期中の販売に比べて格安ですが、本当に「お得」なのか。入場料決定の経緯やいまだ見通せない万博の「中身」から考えます。



建設中の大阪・関西万博会場＝大阪市此花区で



あの人に聞く「お留守番禁止条例案」

27日(月)＝夕刊2面

いわゆる埼玉県の「お留守番禁止条例案」が撤回されて1カ月余がたちますが、世間のザワザワ感は今も収まっていないように感じます。そもそも、きょうだいで留守番も親の虐待だと

断じるような、あのような議案がどうして提案され、成立寸前まで進んだのでしょうか？ 埼玉を愛してやまない「あの人」にツッコんでいただくことにしました。

「お留守番禁止条例案」を巡り、ドタバタ騒動が起きた埼玉県議会の議事堂。さいたま市浦和区で



先月、「なぜ？の視点から考える」をテーマに、大学で講義をしました。社会に出ると、自分の考えを伝える必要性に迫られます。学生にはその最初の関門が就活なので、「なぜ？それはなぜ？」と掘り下げると理解が深まり、考えもまとまり、伝えやすくなると思います。話をしました。事実を伝える記事と、「なぜ？」を伝える記事が毎日新聞にあるのもその延長線上で、読み手の考えの整理、課題の解決につながるとうれしいなと再確認しました。(立花健一)

編集後記

竹橋の窓辺から



論点 教員の長時間労働を考える

30日(木)＝オピニオン面



公立学校の先生たちの長時間労働が問題化しています。文部科学省が2022年度に実施した調査では、国が指針で定めた残業上限(月45時間)に達した教諭

は小学校で64・5%、中学校で77・1%に上りました。厳しい労働環境が敬遠されるなどして公立学校の教員採用倍率は低迷。教員不足も深刻化し子供の学びにも

影響が出ています。どうすれば教員の勤務環境は改善されるのかを、学校現場の働き方に詳しい自治体の教育長、教育研究者、弁護士に聞きました。

